

## 第5節 勉強していてうれしいとき

【高校生の大多数が「うれしい」と感じるのは「難しそうな問題が自分で解けたとき」(94%)と「テストの点数が上がったとき」(93%)。】(図2-9)

Q9

あなたは勉強して、どんなときに「うれしい」と感じますか。①から⑦のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

高校生は、勉強していてどんなときに「うれしい」と感じるのだろうか。高校生の学習行動における充足感、達成感の所在を明らかにするために、図2-9にあげた7項目を設定し、各々について「とてもうれしい」から「ぜんぜんうれしくない」まで4段階で回答させた。

各項目は、9割以上が「うれしいと感じる」（「とてもうれしい」と「まあうれしい」の合計）と答えた2項目と、その他の項目（7割弱から7割強）に二分できる。

高校生の大多数が「うれしい」と感じるのは「難しそうな問題が自分で解けたとき」と「テストの点数が上がったとき」である。ここから、難問を独力で解く経験や、勉強の成

果がテストの点数という具体的な結果として現れたときに、高校生は充足感をもちうることがわかる。この2項目以外については、回答率はおちるものの、しかしいずれも7割程度の生徒がうれしいと感じている。つまり、学習時の充足感は、学習それ自身（難問が解けた！）から得られるだけでなく、父母や教師、仲間から認知される（ほめられた！）という、すぐれて社会的な要因によっても得られるのである。

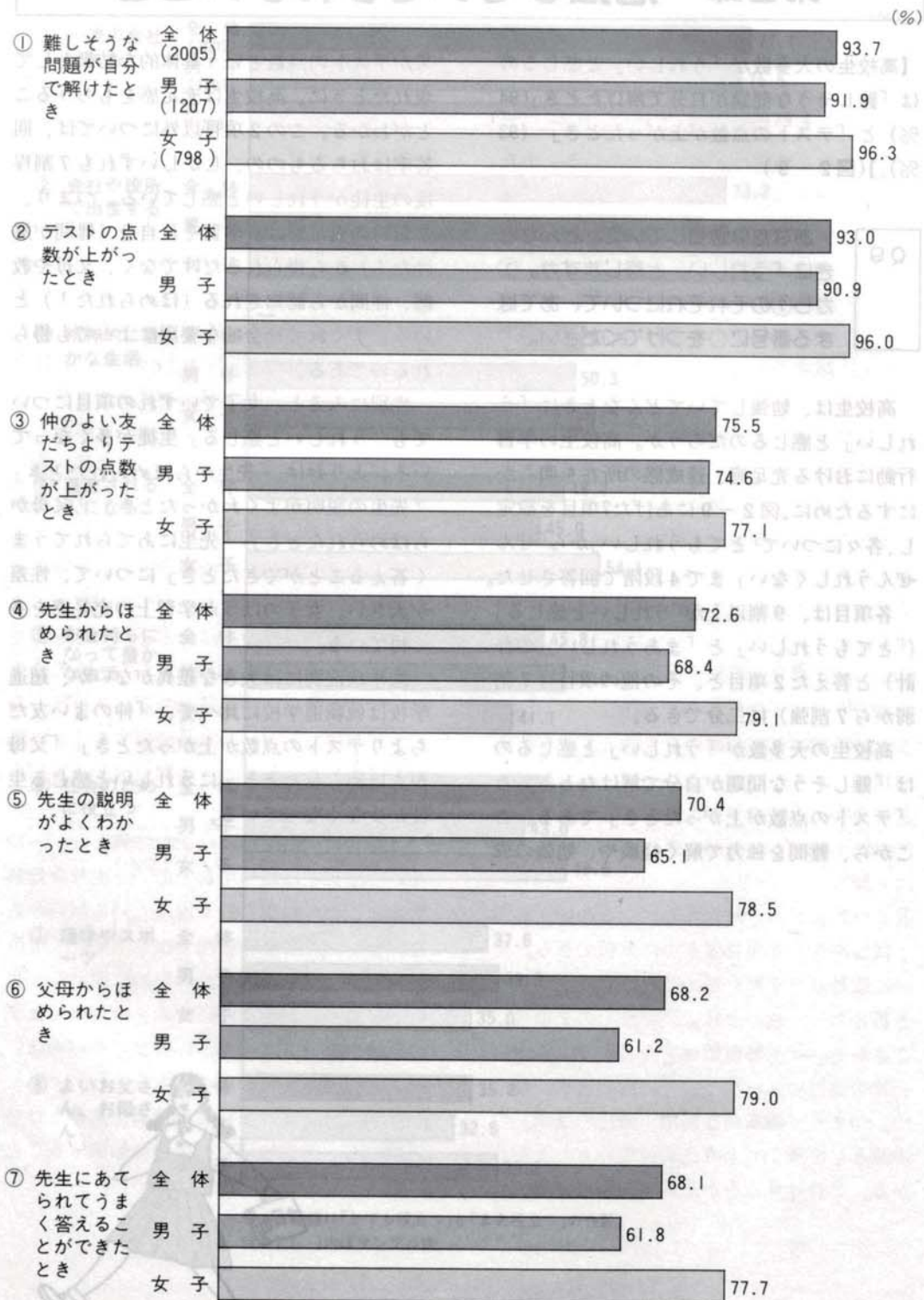
性別にみると、女子でいずれの項目についても「うれしいと感じる」生徒が多くなっている。とりわけ、「先生からほめられたとき」「先生の説明がよくわかったとき」「父母からほめられたとき」「先生にあてられてうまく答えることができたとき」について、性差が大きい。女子のほうが学習上の充足感を多く得ている。

進学状況別には大きな差異がないが、超進学校は就職進学校に比べて、「仲のよい友だちよりテストの点数が上がったとき」「父母からほめられたとき」にうれしいと感じる生徒が少なくなっている。



# 勉強していてうれしいとき

図 2-9 勉強していてうれしいとき



注1) 数値は「とてもうれしい」と「まあうれしい」の合計。

注2) ( )内はサンプル数。